

令和元年度 佐賀県立香楠中学校 学校評価結果

1 学校教育目標 校訓である「知を愛し、和を敬い、心を培え」を踏まえ、高い知性と豊かな人間性、たくましい心身を培い、高い使命感を持って社会の発展に貢献する人材を育成する。 (1)幅広い知識と深い教養を身に付けさせ、論理的思考力と豊かな表現力を育てる。 (2)敬愛・協働の精神を育み、高い倫理観と公正な判断力を育てる。 (3)強い意志と健やかな身体を鍛え、自己実現と社会発展に真摯に取り組む態度を育てる。	2 本年度の重点目標 ①基礎学力の向上 ②生徒指導の充実 ③進路指導の充実 ④教育相談・特別支援教育の充実 ⑤環境美化の推進 ⑥読書指導の推進 ⑦保護者、地域との連携 ⑧ICT利活用教育の推進 ⑨学校における働き方改革の推進
--	--

達成度 A: ほぼ達成できた
 B: 概ね達成できた
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
①基礎学力の向上							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	・授業の充実や学習意欲の喚起等によって、生徒の学力は向上したか。	・「授業で勝負！」を合言葉に、分かる授業の確立を目指す。 ・新学社テストで、各教科80%以上の得点を目指す。	・各学期に1回「授業アンケート」を実施し、指導方法の工夫を図る。 ・進度計画や到達目標の設定等について、中高合同の教科会議で協議・検討を深め、共通理解にもとづいた教科指導を行う。	B	・授業アンケートでは、8割以上の生徒が、授業の内容を理解していると感じており、7割以上の生徒が学習に意欲的に取り組んでいることがわかる。 ・新学社テスト80%以上の得点がとれた教科は、2～3教科であった。	・「めあて」、「まとめ」を意識した授業展開を行い、分かる授業を継続していくとともに、家庭学習の充実などを図り、全体的な学習時間の確保で更なる学力の向上を目指す。 ・中高間の授業参観の頻度を高め、教科指導の充実を図る。
	○教科指導方法の改善	・中高間の効果的な接続を目指した教科指導研究はできたか。	・中高の教職員が、同一教科相互の授業参観を通して、指導方法や生徒の現状等についての理解を深める。	・中高間で同じ教科の授業参観を年2回以上行い、指導内容や指導方法についての相互理解と研鑽を図る。 ・中高合同の教科会議を実施し、シラバスや中高それぞれが抱える課題、新しい教育課程の変更点等について、情報と認識の共有を図る。	A	・中高間の授業参観を年2回(学校設定分)行い、中高間での指導法のちがいや生徒の理解度の違いを知ることができ、良い授業計画につなげることができた。 ・中高での学習の系統性、連続性を感じることができ、中高一貫教育校としての授業展開ができた。	・中高間の授業参観を継続し、さらに教科会議の充実を図る。 ・教科会議で、新指導要領の変更点についての学習会を行い、授業実施、評価についての共通理解を図る。
②生徒指導の充実							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○規範意識の徹底	・発達段階に応じた指導や体験を通して規範意識を身につけさせる事ができたか。	・挨拶の励行と基本的な生活習慣の定着に努める。 ・社会に生きる一員であることを自覚し、自分自身の行動や生き方に責任を持てるようにする。	・委員会活動や生徒会活動を通して、挨拶の大切さや規則を守ることの大切さについて理解させる。 ・学校行事やクラス内の活動を通じて、自分自身を見つめる場を作る。	B	・委員会活動において、挨拶運動や服装検査など生徒が主体となって取り組む活動を行うことができた。 ・クラスでの係活動や学校行事における係など、多くの生徒が役割を担い、責任を持って取り組ませることができた。	・規則を守ることにについては、高い意識を持って生活を送っている生徒が多いが、挨拶については、消極的な生徒も多く、継続した声かけが必要である。また、校外でのマナーについても、継続した注意喚起を行っていきたい。
③進路指導の充実							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○進路指導	・高校卒業後の自己実現へ向け、中学校3年間を通して系統的な進路指導ができたか。	・各学年で、発達段階に応じたキャリア教育を実施する。 ・1年:働く事の意義を知り、自分の社会参加に対する意識を高める。 ・2年:働く意義を体感し、生徒自身の適性や思考を考える態度を育成する。 ・3年:高校生活のために、中学最終学年の過ごし方の工夫・改善を促す。 ・大学で学ぶ事への興味・関心の向上を目指す。	・1年:身近な職業に関する知識を得る時間を設け、将来のヒントを見つける機会を作る。 ・2年:就業体験を実施し、安全に参加できるよう配慮する。 ・3年:鳥栖高ガイダンスを効果的に計画・実施する。 ・各学年で、進学に関して知る時間を設け、大学訪問を実施する。	B	・1年:学問感育成から、職業に関する興味・関心へ導くことができた。 ・2年:職場体験を核に、社会的マナーやルールなどを学ぶことができた。 ・3年:卒業生との座談会や講話、体験授業などを通して、具体的に高校生活のビジョンを持ち、将来の職業につながる進路について考えることができた。 ・アンケートの結果、90%以上の生徒が、学校での1年間の学習や行事を通して「働くことの意義について考えることができた」と答えている。	・難関計画の各行事の精選と内容の改訂を行う。 ・1年:職業感育成のため、身近な社会人へのインタビューなどを行う。 ・2年:校外研修において、大学訪問を実施する。 ・3年:職業観育成をさらに充実できるように、高校で実施されている「キャリアプランニングセミナー」に参加する。

④教育相談・特別支援教育の充実							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・調和のとれた「豊かな人間性」を育成できたか。	・道徳や総合的な学習の時間、学校行事、掃除の時間、部活動等、学校の教育活動全体をとおして、「自律性・共感の力・協調性・感動する心」を育成する。	・各学級で年間1回は道徳の授業を保護者や地域の方に公開する。 ・道徳の授業検討会による授業の充実を図り、3年間を見通した体系的な指導を行う。 ・道徳や総合的な学習の時間、学校行事等で、「体験」を取り入れた学習活動を行い、協働の姿勢を身につける。	A	・年間計画に沿って、適切な道徳の授業の展開や学校行事を行うことができた。 ・生徒の全体像として、自ら考え、行動することができる生徒が増えてきた。また、学校行事を通して、学級や学年としての団結を見ることができ、協調性の高まりを感じることができた。	・講話や学級担任の話など、「自律性・共感の力・協調性・感動する心」を高めるような話を多く取り入れ、生徒の共感が得られ、道徳性が高まるようにする。 ・学校行事では、その意味や意義を理解し、集団として行動することの大切さを継続して、学ぶ機会を作っていく。
	●いじめ問題への対応	・いじめの早期発見・早期対応に向けた校内体制の確立ができたか。	・他者の存在を肯定し、共生の意識を向上させる。 ・アンケートや学活ノートを通じて、生徒の直面する課題を的確に把握し、対応する。	・道徳や学活、学校行事等を通じて、集団活動の中で、他者を思いやる気持ちを培う。 ・いじめアンケートや学活ノートなどの記述から、日々の生活の状況を把握し、必要に応じて個別面談や集団指導を通じた、いじめの早期発見・解決を図る。	B	・定期的なアンケートや日々の生徒との関わりの中で、早期発見、早期対応ができた。2月末現在で、いじめの覚知が20件、認知が12件である。他者の言動を受容する気持ちの欠如によって相手を傷つけてしまうケースが多かった。	・道徳や学活、学校行事等を通じて、自他の違いを認め、受け入れる気持ちを養わせる場を設定する。また、日ごろから生徒とのコミュニケーションを密にとり、相談しやすい雰囲気を作っていく。定期的なアンケートは継続し、早期発見に努めたい。
⑤環境美化の推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○環境美化	・生活環境を整え、美しく保とうとする態度と意識を育成できたか。	・毎日の清掃活動に真剣に取り組む。 ・教室や特別教室等の整理整頓を行う。	・生徒と教師と一緒に清掃活動に取り組む。 ・教室等に不要なものを置かず、それぞれの配置をあらかじめ決めておき、使用後すぐの原状復帰に努めさせる。	B	・保健委員の活動として、手洗い励行の声かけや換気のための窓の開閉を行った。インフルエンザによる学級・学年閉鎖があったので、今後ないようにしたい。	・感染症の予防は、生徒一人一人の意識によるところが大きい。感染症についての理解を深めるために、朝の会や帰りの会で担任や保健委員による保健学習の機会を設けたい。
⑥読書指導の推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○読書指導	・読書活動の充実ができたか。	・読書感想文コンクールに作品を応募することで、生徒の読書量を増やす。 ・図書委員会の活動を通して、教科書で扱う筆者の本や、同ジャンルの他作品に触れる。 ・秋の校内読書会で、学年で同じ一冊の本を読んで意見交流し、個々の読書活動を充実させる。	・曜日を決めて図書室利用を促す。 ・高校図書委員会と連携して読書レースを開催し、年間の読書量を増やす。 ・図書館の飾り付け(ポップ)や案内(蔵書場所)を充実させる。 ・朝読書の時間は読書に専念させる。 ・校内掲示板とクラス掲示の図書欄を充実させる。 ・読書感想文集を刊行し、読書活動の共有を図る。	A	・新春および青少年読書感想文コンクール前に、図書館利用を推奨した結果、ほぼ全員応募でき、課題図書・自由両方の部で各学年入賞を果たし、県審査で学校賞を頂いた。 ・図書委員会の活動は、高校と連携して、初のビブリオプレゼンテーションの企画・運営を行い、当日までの取り組みも含めて成功させることができた。課題は1年生の読書量が他学年と比べて極端に少ない点である。	・今後も図書委員会活動を充実させ、各クラスで「本の日」や「本の木」の活動を継続していく。その際に、様々なジャンルの本や、教科書に関連した本の紹介をより詳細に行うことで、現1年生や新入生も、図書室の本を手に取りやすくする。なお、市町の図書館を利用して読書活動が多いので、本の紹介を学校図書館の本に限定しない取り組みも必要である。 ・生徒会の掲示板を頻繁に更新することで、小学校の図書室を参考に、最新刊がいつ図書室に入ったか、どんな本がよく読まれているか、などの情報を共有できるようにする。
⑦保護者、地域との連携							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○開かれた学校づくり	・学校ホームページ等を利用して、保護者や地域への情報発信ができたか。	・学校行事や各種取組結果等の情報の定期的なアップとタイムリーなアップに努める。	・ホームページ担当者を中心に、行事予定等の情報の定期的な更新と、各種行事や活動内容のタイムリーな情報アップに努める。	B	・学校ホームページを通して、行事日程の変更等を速やかに知らせることができた。 ・年度途中でホームページのシステム変更があり、各月の行事予定のお知らせが遅れることがあった。	・ホームページは、前システムと比べて更新しづらいところがあるので、早く新システムに慣れ、円滑に情報公開できるよう努める。
⑧ICT利活用教育の推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	・ICTを利活用した効果的な教育実践ができたか。	・ICT機器を利活用する授業実践研究に積極的に取り組む。	・中高合同の教科会議で、ICT機器の利活用の取組を公開し、教材研究に活かす。 ・多くの教員が、実践校の授業公開や各種研修会に積極的に参加するとともに、校内研修会でその取組等を紹介する。 ・オープンスクールや授業参観等でICT機器を用いた授業を公開する。 ・総合的な学習ではインターネットを利用し、効果的に資料を集めたり、データをまとめることができるよう指導する。	B	・ICTの授業公開では、どの教科においてもICT機器を活用した授業を行った。 ・生徒用タブレットは、総合的な学習の時間に調べ学習を行ったり、各教科においてプレゼンテーション活動を行ったりするなど効果的に活用されている。また、英語検定対策ソフトを利用した学習も行われ、生徒の英語検定資格取得にも役立てられた。	・本年度は教育情報システムの大幅な変更に伴い、ICT利活用を用いた学習の質の向上に取り組むことがあまりできなかった。次年度は、授業公開や各種研修に積極的に参加することでICTを用いた授業の改善を目指す。また、新たな実践方法を模索し、より効果的な活動を目指していく必要がある。

⑨学校における働き方改革の推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・教職員の時間外勤務の縮減ができたか。	・定時退勤推進日の設定、積極的な休暇取得の推奨などによって、時間外自発勤務時間を前年度比10%縮減する。	・週1回の定時退勤推進日を設ける。 ・長期休業中の時間外勤務の解消及び学校閉庁日を設定する。 ・年次休暇、振替休日等の取得を推奨する。 ・安全衛生委員会を毎月開催し、業務改善のための方策の検討や取組の検証を行う。	B	・左に挙げた具体的方策はすべて取り組むことができた。 ・時間外自発勤務時間の縮減については、振替休日等の完全取得や年次休暇取得の増加により、2%減(2月末現在)にとどまった。	・全体的に時間外勤務の縮減ができてきているものの、一部の校務分掌や部活動を担当する教職員の削減ができていないため、職員の配置や仕事の分担を見直す必要がある。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	●志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進ができたか。	・「夢や目標があり、その実現に向けて頑張っている」と回答する生徒を70%以上にする。	・夢を実現させた外部講師を招聘し、夢や目標を持つこと、その実現に向けて努力することの大切さを学ばせる。 ・「佐賀巡り」等の郷土学習資料を活用した、佐賀の偉人について学ぶ授業の実施。	B	・アンケートで、夢や目標に向かって、頑張っていることに肯定的な回答をした生徒が、74.2%であった。進路学習と連携をし、将来を見据えた活動ができています。 ・一部で、夢や目標を設定できていない生徒がいる。そのような、生徒への教育相談等での個別対応や進路意識の向上が課題に挙げられる。	・進路指導主事の講話や担任の話より、自分の将来に向けて意識を高めるような活動を継続的に行っていく。 ・総合的な学習の時間や学級活動の中で、自分を見つめなおす機会を設定し、将来の自分を想像し、夢や目標に向かって実践していく生徒を増やしていく。
	○生徒会活動の充実	・委員会で決定したことを、生徒一人一人が実行し委員会活動を充実させることができたか。	・月に1回の各種委員会を開く。 ・各種委員会の月ごとの目標を全クラスに掲示し、全校生徒が生徒会の一員であることの自覚を持たせる。	・月に1回の各種委員会において、月ごとの目標と活動内容を明確にし、クラスに伝達する。 ・委員会報等を作成し、活動内容を全校生徒へ提示する。 ・全校生徒にアンケートをとり、取り組みを確認する。	A	・各種委員長が各担当の職員といろいろ相談し、現状に合わせた目標を設定することができた。委員会活動を通して、その目標を全校生徒に周知することができた。 ・意見箱を全クラスに設置したことが新たな取り組みであるが、まだまだ活用されていない現状である。	・意見箱の活用について、もっと宣伝する必要があると思う。全クラスに意見箱の活用についてのプリントを作成し、配布するなどの対応が必要であると考えている。
	●健康・体づくり	・望ましい食習慣と食の自己管理能力が育成できたか。	・朝食の摂取率を98%以上にする。	・各教科(保健体育、技術・家庭、理科、社会、道徳等)や昼食指導、学校行事等での食に関する指導の充実・徹底。	A	・事前にアンケート調査を行うことで朝食に対する意識が高まり、昨年度の97.2%から、今年度は98.4%と朝食の摂取率を上げることができた。来年度も引き続き90%以上を継続させる。	・継続して保健委員による呼びかけやアンケートを行い、朝食に対する意識を高め、摂取率を維持・向上させたい。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

・学校教育目標を達成すべく、本年度の重点目標を定め、各評価項目について取り組んできたが、年間計画に沿って組織的に取り組み、すべての項目で概ね達成できた。
・来年度以降、今年度の成果と課題をもとに、各分掌、学年、学校全体でこれまでの具体的取組を検証・協議するとともに定期的な振り返りを実施しながら、評価項目の成果指標で設定した数値目標が確実に達成されるよう努めたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目